

世界には今、「熟慮」が必要だ。

THINK SLOW. MAGAZINE

急ぎすぎている。今、世界中が。
絶えず刺激を欲し、瞬発力で回答を迫られ、
昨日はたちまち今日に上書きされる。
誰もが、無意識に求めているのかもしれない。
急ぐ足を止め、目の前の物や事を深く見つめることを。
正しく判断するための知識を蓄えることを。
想像力を思い切り解き放つことを。
他者を思い、社会を育み、自分らしく生きる道を見出すには、
じっくりと「考える」ことが必要だ。
そして本は、あなたの考える時間に寄り添うことができる。
日本のすみずみへ、本を届ける。
私たちが受け継いできたこの使命こそ、
世界が求める鍵なのだとしたら。
今こそ、本の出番じゃないか？

本を届ける、日本のすみずみへ。

TOHAN



P.12	P.11	P.10	P.9	P.8	P.7	P.6	P.5	P.4
ここで唐揚げ弁当を食べないでください よく見れば、 何気ない日々は光っている	魚が存在しない理由 私たちは生物を、自然を、人間を 正しく見ていると言えるだろうか？	改訂完全版 奇想、天を動かす 昭和の影を総括した 社会派×本格ミステリーの傑作	生物と無生物のあいだ 私たちの存在を揺るがす、 おどろきの「生命観」	どこでもいいからどこかへ行きたい 生き方をフクにする、 ふらふらと移動することのススメ	100の思考実験 これは「読む本」ではありません。 「考える」本です。	時間のかかる読書 べつに本なんて、 速く読めばいいものではない。	断片的なもの社会学 要約できない「人生そのもの」を とらえることはできるか	遠野物語 あなたはきっと戦慄する—— これらはすべて実話だった
P.22	P.21	P.20	P.19	P.18	P.16	P.15	P.14	P.13
人間たちの話 「SFは難しそう」と感じている人にこそ 読んでほしい一冊！	ゾウの時間 ネズミの時間 時間とは 唯一絶対不変のものではない——	増補版 ガザとは何か 今だからこそ読みたい、 パレスチナ問題の本質	不安の世代 スマホ登場で「子ども時代」の あり方は完全に変わった	自分の中に毒を持って（新装版） 「人生を変える読書」を体感する 3つの読み方	オリジナル企画 「セット読書」のすゝめ	水中の哲学者たち 「どっか世界が これ以上速くなりませんように」	おとなになるのび太たちへ 毎日頑張る 子どもののび太と大人ののび太へ	星の王子さま 大人になって出会え直す、 「考える余白」をくれる名作
P.31	P.30	P.29	P.28	P.27	P.26	P.25	P.24	P.23
編集後記	時の辞典 あなたの記憶のとびらを聞く 365日の短文	夜と霧 新版 生きることに期待がもてない、 そんな時に聞いてほしい	漫画 君たちはどう生きるか 立ち止まり、考え続けることの 大切さを教えてくれる物語	さみしい夜には、ペンを 「ひとりカラオケ」を 歌うように	コンビニ人間 古倉恵子が 歩いてきた道	極夜行 真の闇を経験し、 本物の太陽を見る	アンジュール ある犬の物語 言葉を重ねるよりも、 伝わる真実——	読むこと考えること 世界を少しだけややくしく、 そして面白くする一冊



THINK SLOW.

私たち THOHN は、この言葉をコーポレートメッセージとして掲げています。本屋が一軒も存在しない「無書店地域」と呼ばれる市区町村が全国で28%を超えました。かつては当たり前だった「本屋に寄って帰る」という光景は続々と姿を消し、今この瞬間も、日本のどこかで本屋がひっそりと、その灯を落としているかもしれません。

電車の中でも、カフェを見渡しても、本をひらく人を見かけることは少なくなりました。スワイプするほどに膨れ上がるニュースやコンテンツは、驚くほど軽やかに、好奇心を満たしてくれます。

それでも私たちは思うのです。人間の本质は「熟慮」にこそある、と。押し寄せる情報に条件反射するのではなく、一度立ち止まり、自身の感覚を確認し、他者を思い、考えに考え抜いた先に、自分らしい生き方を見出していく。本こそが、その「熟慮」に寄り添い、あなたの道を照らす存在であり続けると。

日本のすみずみへ、本を届ける。そんな私たちの仕事は、日本のすみずみへ「熟慮」を届けるという使命を担っています。時代遅れだと笑われるでしょうか。それでも、私たちは信じています。今こそ、本の出番じゃないか。

あなたはきつと戦慄する——これらはすべて実話だった



原作 柳田国男 / 漫画 鯨庭 / 監修・解説 石井正己
『遠野物語』 KADOKAWA 定価1,320円(税込)
216ページ 初版2024年9月 並製本 古今東西の名作を
コミカライズ、日本国内と海外へ展開するレーベル
「KADOKAWAマスターピースコミックス」の人気作品です。

気の神、よいことやわるいことを知らせてくれる神などとして崇められている。その由来の物語。

■「河童の子」——河童

ある村の娘が河童の子を生んだ。河童の子の運命は？ 今日でも誕生したばかりの赤ちゃんに関する悲しいニュースが後を絶たない。子どもの命をどう考えるかは、最も重要な課題である。現代にまで続く、『遠野物語』が描き出す人間社会の姿。

■「狐は夢」——狐

船越にとでも仲の良い夫婦がいた。夫の漁師が吉里吉里へ出かけたが、その帰りが遅くて妻は心配になり……。その昔、狐は人間に化けると信じられていた。また、思いが募るとすぐに浮



【編集担当者からのコメント】
日本社会が西洋社会と出会い、人々の心が「ゆらぎ」はじめた頃の物語です。

東京学芸大学名誉教授・石井正己先生の丁寧なご指導の下、『遠野物語』が持つ普遍的なメッセージをしっかりと込めることを目指しました。

鯨庭さんならではの繊細ながら迫力のある絵で描かれた『遠野物語』の世界をぜひご堪能いただけたら嬉しいですよ。

要約できない「人生そのもの」をとらえることはできるか



断片的なものの社会学

岸政彦 Kishi Masahiko

人の暮らしを聞くということは、ある人生のなかに入っていくということ。

紀伊國屋じんぶん大賞2016受賞!

ひさしぶりに、読み終わるのが惜しいような本に出会った。——上野千鶴子
社会全体の未来を見据えたことは——高橋源一郎
絶賞! 中江有里、平松洋子、佐々木敦、千葉雅也、雨宮まみ、星野智幸

岸政彦『断片的なものの社会学』朝日出版社
定価1,716円(税込) 244ページ 初版2015年5月
並製本 鈴木成一さんデザイン。表紙や本文中の写真も、特別な意味をもたない写真が選ばれている。

人生には意味があるか、ないか

人生とは、なんだろうか——この問いの背後には、「意味のある人生とはなにか」という問いが隠れている。

私たちはふだん、より良く生きようとしている。そして、ついつい、誰かの生は別の誰かの生よりも「意味がある」と考えたりもする。けれど、本当は、「人生」を取り出して、はかりにのせ、その重さを測ることはできない。一休

さんのように、屏風からトラを出すようなことはできないのだ。

【断片的なものの社会学】は、まさ

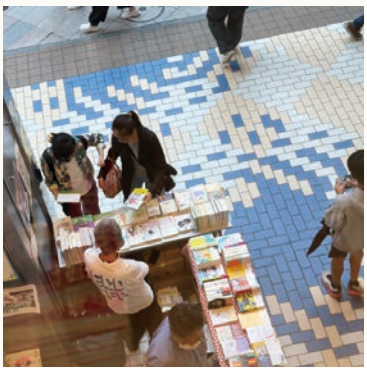
にそのような「意味」や「価値」といったものが無効になるような、「人生そのもの」に目を向けた一冊だ。著者の岸政彦さんは小説家としても活躍する社会学者であり、市井に生きる人々の人生を聞き取る調査をしてきた。その仕事は、150人が150人の語りを開いた『東京の生活史』をはじめとする生活史シリーズに結実するが、本書

はその出発点ともいえるエッセイ集である。広範な支持を集め、紀伊國屋じんぶん大賞2016を受賞した。

意味づけの外へ出たい日に

生活史の聞き取りでは、その人の人生の語り聞く。けれど、それはその人の人生のすべてではない。私たちは、生きてきた時間を何らかのストーリーにして理解するしかないが、「人生」はそこには収まりきらない。

本書に出ているのは、うまく意味づけできない瞬間の数々だ。たとえば、



遊してしまう魂の「軽やかさ」を描いた、二重に怪しい物語。

■「おおかみがいた」——御犬

『遠野物語』が発刊された明治末期には、ニホンオオカミはすでに絶滅していたが、遠野あたりでは御犬と呼んだ狼の話が伝わった。御犬の経立は年を取った狼のことで、特に恐れられた。なぜ、御犬は滅びることになったのか。人間と自然の関係が失われ始めた頃の物語。

——丁環境の進展とともに、私たちはますます「意味づけられた」社会を生きている。役に立つか、わかりやすいか、価値があるか。その渦中で「これだけが世界ではない」と確かめるために、この本を何度でも開きたい。

生き方をラクにする、ふらふらと移動することのスズメ



pha『どこでもいからどこかへ行きたい』幻冬舎
定価759円(税込) 264ページ 初版2020年2月
並製本 幻冬舎文庫は、横幅が通常の文庫本より5mm
ほど小さいのが特徴です。文庫本の魅力の一つに手軽さ
があるかと思うのですが、ポケットにも入るので、旅をする
この本にもピッタリです！

牛丼とか食べている。あとはマクドナルドで100円のドリンクを飲みながら持ってきた本を読んだりスマホでネットを見たりする。(中略)
：旅先でふと我に返り、自分は何でこんなところにいるんだらう、と思う瞬間が好きだ。(本文より)

家から出たら、それは旅。
(幻冬舎担当編集)

ぼーっとしたいときに高速バスに乗る、青春18きっぷでだらだら移動する、意味もなくビジネスホテルに泊まる、昔住んでいた場所に行ってみる、夕暮れのファミレスで本を読む……。つまり、家から出たら、それは「旅」だということ。真似したくありませんか？

小さな余白を思い出す。
(トーハン社員)

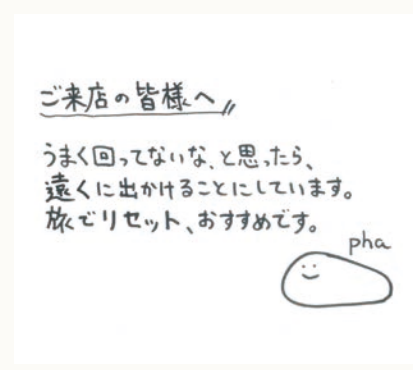
行くあてはないけど家にはいたくない

旅に出るときはいつも突然で、できるだけ誰にも言わずに一人でいきなり出かける。

特に旅の目的があるわけでもないの
で早く着く必要はないし、移動中の時
間が好きなので、新幹線や飛行機は使
わず高速バスや鈍行列車で時間をかけ
て移動することが多い。
泊まる場所は移動中の車内で検索す

ればなんとかなる。宿にこだわりはな
く、自分の家以外の場所にいられるな
らどこでもいいという感じなので、安
いビジネスホテル、カプセルホテル、
サウナ、スーパージョウ、ネットカフェ
などに泊まる。
旅先でも一切特別なことはしない。
観光名所なんか一人で行ってつまら
ない。景色なんて見ても2分で飽きる。
一人で食事をするときはできるだけ短
時間で済ませたいので、土地の名物な
どは食べず、旅先でも普通に吉野家の

たまたまそこに密度が高まっている分
子のゆるい「淀み」ではない。しかも、
生命体を構成する分子は、外部の分子
と高速で入れ替わっている」という考
えだ。
著者はここに着目し、私たちが構成
する分子が入れ替わり続けても個体と
しての形を保ち続けられるのは、生命
がひとつの「平衡状態」を創り出して
いるからだという結論を導き出す。
分子レベルでは、私たちはこの瞬間
も別人へと変化し続けている――。
著者が提示する生命観は、生命とは
極めてなめらかな柔軟なものであるこ



本書の魅力は、Dokoemoiさんの「旅の方法」と「行き先」にあると思っています。

目的地や体験を次々と消費していく旅ではなく、ただ場所を変えてみる旅。そのゆるやかな感覚が心地よく、読んでいる内に自分の呼吸も少し整っていきのびがよかったです。子どもが生まれてからは、時間に追われ、会社と家を往復する日々が続いています。考えるよりも先に動き、気づけば一日が終わっている。そんなときこの本を読み、静かに背中を押された気がしました。明日はいつもと違う場所に行つて、ただぼーっとしてみよう。そんな小さな余白を思い出させてくれる一冊です。

私たちの存在を揺るがす、おどろき「生命観」

生物と無生物のあいだ
福岡伸一

累計85万部突破!!
「ポスト・コロナ」の未来が見える!



福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社
定価1,100円(税込) 288ページ 初版2007年5月
並製本 『新書大賞2008』の第1位受賞作

生命とは何か？ 本書は生物学にお
ける普遍にして最大の問いに、20世紀
の分子生物学の研究成果をもとにして
向き合っていく。

作中を通して軸になるのは、「生命
は、物質・エネルギー・情報の流れの
中にあり、たえず変容し、更新されな
がらバランスを保っている」という「動
的平衡」と呼ばれる概念である。
下敷きにあるのは、生化学者である
ルドルフ・シェーンハイマーによって
1930年代に展開された「生命体は、

生物は常に構成分子を入れ替えなが
ら、死へと向かう「不可逆な時間」の
流れに乗せられている。時間とは生命
にのみ存在する概念で、機械には存在
しない。終章で語られる内容は、ゆっ
くりと物事を考えることがいかに生物
らしい営みであるかを裏付ける。
絶えず決断を迫られ、熟慮する余裕
などない現実社会を生きっていると、ふ
と自分が機械になったかのような錯覚
に陥る。そんな時にこそ、あえて手を
止めてみるべきではないか。なぜなら、
忙しい時間の流れに逆らうように
ゆっくりと考えることは、生物のみに
与えられた特権であるからだ。
自分を構成するミクロなパーツに思
いを巡らせることには、世界の捉え方
を変えるための多くのヒントが詰め込
まれているはずだ。

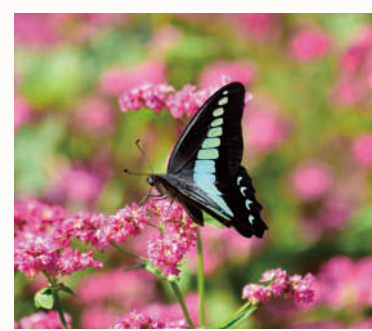
生物にとって「時間」とは何か

分子レベルから「生命」を考える

読み終えると「新たな自分」と出会
うことができる。

少なくない時間を使い、新書を手に
することで得られる最大の喜びなので
はないか。

「新たな自分」とは、決して比喩で
はない。「生物と無生物のあいだ」は、
この重要な気付きを私たちに与えてく
れる。



「アオスジアゲハ」にまつわる著者の少年時代の思い出は、「生命の不可逆性」について考えるうえで重要な役割を果たす

昭和の影を総括した社会派×本格ミステリーの傑作



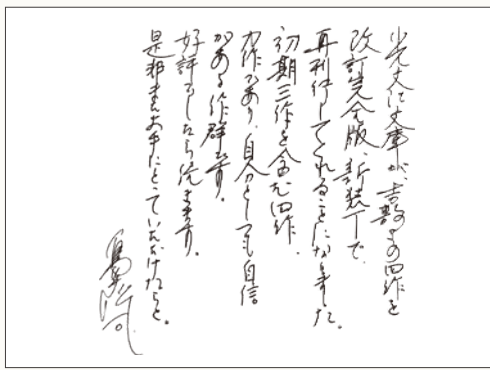
島田荘司「改訂完全版 奇想、天を動かす」 光文社
定価1,056円(税込) 496ページ
初版2026年3月(カッパ・ノベルズ版1989年9月)
並製本 光文社文庫は1984年創刊!

とてもいべき奇怪な謎の数々が、やがて事件を起こした老人の壮絶なる過去と絡み合い、結びついていく。硬派かつ重厚な筆致の見事さもさることながら、ミステリーの基本となるホワイダニットをどこまでも突き詰めたかのような構成の巧みさこそ、本作が時代を超えて多くの読者に愛される理由の一端であることは間違いないだろう。

さらに先述の消費税に代表されるような「平成」の要素と、冤罪などが表象する「昭和」の要素が作中の随所にちりばめられている点も見逃してはならない。昭和から平成という時代の転換点において、日本という社会はどのような問題を内包していたか。それを克明に描き出し、読者に訴えかける視線を抜きにしては、単なるミステリーの枠を超えた本作の意義深さを語ることはできないだろう。

昭和から平成そして「令和」になった現代。「正義」と「権威」に対して決して盲目的にはなっていない。時代の荒波に飲まれた弱者に寄り添いながら捜査を続ける吉敷竹史の姿は、そんなメッセージを我々読者に示しているようである。

なお、本作に続き『寝台特急「はやぶさ」1/60秒の壁』『出雲伝説7/8の殺人』『北の夕鶴2/3の殺人』の三作が改訂完全版として刊行される予定だ。こちらは「吉敷竹史シリーズ」の貴重な初期三部作として、同じく一級品ミステリーである。本作に続けて手に取って頂きたい。



私たちは生物を、自然を、人間を正しく見ていると言えるだろうか？

魚が存在しない理由

ルル・ミラー 上原裕美子 訳
SUNMARK PUBLISHING



人は何かに名前をつけると、
本当の姿を見ようとしなくなる

僕はナマズを飼っている。名前は「ネコ」。ナマズは夜行性の魚だ。玄関にある60cm水槽で生きる「ネコ」は、夜遅くに僕が帰って電気をつけるたび、ビクッとして素早く泳ぎ回る。

そして僕の姿を見るや、ご飯をもらえるところまで水面にニョロニョロ近づいてくる。

さて、ここに書いた話全部「真実」ではないかもしれない。

「魚が存在しない理由」を編集したから、よりこう思える。

「ネコ」という名前を、「ネコ」はもちろん認識していない。「ネコ」が「ネコ」である証拠はどこにもない。

「ナマズ」もそうだ。「ナマズ」という名前は物体として存在していない。「ナマズ」は100%「ナマズだ」なんて誰も言えないはずだ。

「魚」もそう。人間がつけたラベリングにすぎず、「魚」というものが物理的に存在しているわけではない。

そう、本書は人間の世界の見方についての1冊だ。

名前が便利だ。名前がついた瞬間、それは固有のものになり、我々は気持ちよく動く存在としてクッキリ認識できる。だから、人はあらゆるものを分類してき、整理してきた。

デザインの背景

- 書籍の内容とリンクするよう、見る角度によって見え方が変わるホログラム箔を使用
- 棚差しになっても目立つよう、背まで全て箔押し
- 内容に見合った緊張感が出るよう、繊細な線やコンデンスド書体で構成
- 物体としてのまとまりと美しさを感じられるよう、小口印刷の図版と色味を吟味



よく見れば、何気ない日々は光っている



小原晩『ここで唐揚げ弁当を食べないでください』
実業之日本社 定価1,760円(税込) 176ページ
初版2024年11月 並製本
私家版の刊行記念イベントで展示された、佐治みづきさんによるオリジナル四コマ漫画を巻末に入れるなど、私家版のこの断片が装幀に散りばめられている。

本書はまさに、その時間を読者に手渡し、自分自身の気持ちと向き合うきっかけを与えてくれます。日々からこぼれ落ちる感情を丁寧にすくい上げて紡がれた言葉によって、わたしたちは自然と自分の記憶と重なり合う瞬間を見つけていきます。あのときの恥ずかしさや傷ついたこと、そしてふいによみがえる可笑しさ。そんな過去の断片が、この本を読むことで少しずつ照らし出されていくのです。見方を変えれば、どんな出来事のなかにもたしかに光はあったのだと、気づかされます。

本書の印象深さは、場面の切り取り方にもあります。「ここで唐揚げ弁当を食べないでください」という具体的でささやかな出来事が、不思議なほど普遍性を帯び、読む者それぞれの経験へとひらかれていく。ユーモアの奥にあるかすかな



©Saji Mizuki

孤独や不安、そしてそれでも日常を生きていこうとする実直なまなざしが心に響いてきます。読み終えるころには、いつもの街並みや見慣れた日常の風景が、少しだけ違って見えてくるはずです。視線が少し上を向き、世界を見つめる角度がやさしく変わっていることに気づくでしょう。年代を問わず、いまを生きているわたしたちにそっと寄り添い、励ましてくれます。忙しい日々のなかで、自分を失いそうなきに聞きたくなくなる『お守り』のような一冊です。



Memo

大人になって出会い直す、「考える余白」をくれる名作

今回のフェア銘柄の中でも推薦者が特に多かった『星の王子さま』。その魅力、とりわけ集英社版についてトーハン社員で座談会を行いました。



サンテグジュペリ著/池澤夏樹訳
『星の王子さま』 集英社
定価572円(税込) 144ページ
初版2005年8月 並製本

いただきたい作品です。星の王子さまはたくさんのご質問、考えます。皆様も子どもの頃に不思議に思っていたことを思い出しながら、もう一度深く考えてみてはいかがでしょう？

翻訳・編集によって変わる読書体験

社員B 特に集英社文庫版は、横書きなのが新鮮でした。読む時のリズムがちよっと違う。

社員A 翻訳も大きいですね。池澤夏樹さんの言葉のチョイスはシンプル。逐語訳的で原文に近いのかも。

社員B けっして読みにくくはないけどすっとは流れなくて、どこかが止まっている。「これってどういう意味だろう」と考えさせられる。

社員A 他の版と比べると、その「考える感じ」が強い気がします。色々な訳を読み比べてみますね。



Memo

なぜ「今」、『星の王子さま』は選ばれるのか

社員A やっぱり、自身の経験に照らし、真っ先に思い浮かぶ本なんだと。子どもの頃に読んだ記憶がある人も多いです。

社員B 僕もそうですね。久しぶりに読んで、子供の頃と印象が変わりました。響くところが違うというか。

社員A 小さい頃はよく分からなかった言葉が、大人になると引っかけると

ですよね。「自分にとってのバラって何だろう」とか・・・

社員B 王子さまの年齢も曖昧で、何を言っているのかよくわからない言葉も多い。説明しすぎないからこそ、そこに余白が生まれ、自分が入り込んでいく感じがあると思います。

社員A 読む人それぞれの『星の王子さま』がある。そこが選ばれる理由かもしれないですね。

【出版社コメント】
本書は、急がず少しずつ味わって

毎日頑張る子どももののび太と大人ののび太へ



藤子・F・不二雄『おとなになるのび太たちへ』小学館
定価1,540円(税込) 208ページ 初版2020年9月
並製本 表紙ののび太はドイツ製の特殊インクで印刷。
きらりと光ります。

夢を叶えた人は
めちやくちや努力家!

ないのは努力不足」と思われてしまうかも? そんな不安も広がりました。

すてきな未来を作るために

協力してくださったのは10人の方々。裏山を駆け巡った記憶をデジタルで再現する猪子さん。評価に屈せずゲームの価値を変えた梅原さん。噛み締めた感情を自分の財産にする梶さん。思い込みを行動にして手を動かし続ける亀山さん。夢を届けるため、「夢のある世界」を作る菅田さん。素晴らしい仲間と新たな景色を見続ける田村さん。友達と切磋琢磨して今の自分を作った辻村さん。やりたいことに挑戦した結果、料理にたどり着いたなかしまさん。子ども心を忘れず、みんなを楽しませるはおおさん。毎日猛勉強して医者になり宇宙に飛び出した向井さん。

しかし、話を聞けば聞くほど、夢を叶えるためには、想像を超える必死さで日々頑張らなければならないことを突きつけられ、頑張っていない自分自身を猛省すると同時に、「夢を叶えられ

でも、さすが藤子・F・不二雄先生。「ドラえもん」には、大人ののび太が、子どももののび太に自分も頑張っていることを告げる作品もあるんです。夢を見ることを過ぎた大人だって、今日が昨日より少しでもいい日になるよう、何かに向かって頑張っているんですよ。

未来に進む子どもののび太も、今を生きる大人ののび太も、一緒にすてきな明日を思い描けますように。



「どうか世界がこれ以上速くなりませんように」



永井玲衣『水中の哲学者たち』晶文社
定価1,760円(税込) 268ページ 初版2021年9月
並製本 装丁/鈴木千佳子

わからないところなどについて、対話を続ける。その哲学対話の輪が、いまじわじわと広がっているのです。

哲学的なテーマといっても、堅苦しいものではなく、たとえば、なぜひとの恋人は良さげに見えるのか? わかっちゃいるけどやめられないのはなぜか? 夢と現実のちがいは? 死んだらどうなる? 冬に食べるアイスはなぜおいしいのか? ……などさまざまな問いがテーマとなります。

話は、ひとと一緒に考えるから、みんな潜ります。その新鮮な体験の奥深さを伝えていところが本書の魅力となっています。

世界を俯瞰するような大きなスケールの哲学ではなく、借り物の問いではない、自分自身の問いや、ささやかで切実なひとびとの呼びかけから生まれる哲学を、著者は「手のひらサイズの哲学」と呼びます。「世界のわからないを、わからないまま伝える哲学」「わけのわからないへんてこな世界を、純粹にそのままうつつだしているような哲学」……こうした手のひらサイズの哲学のおもしろさ、不思議さ、美しさが本書にはぎっしり詰め込まれています。

「もっと普遍的で、美しく、圧倒的な何か」をもとめて、みんなが水中に深く潜って考える哲学対話。そのあたらしい世界を、本書でぜひ体験してみてください。きっと発見があるはずです。

(編集担当: 安藤聡/あんどぅあきら)

対話をするとは、
他者に出会うこと

何事にもスピード感がもたれられる時代に、ゆっくり考えることを勧める本が読まれています。累計で5万部を超えたロングセラーである本書『水中の哲学者たち』もその一冊。プロスキーターの羽生結弦さんが、アイスショーのストーリーを創る際にこの『水中の哲学者たち』を参照したことも話題になりました。

著者の永井玲衣さんは哲学者・作家で、哲学対話のファシリテーターとしていま全国を飛びまわっている方。哲学対話とは、哲学的なテーマについて、ひとと一緒にじっくりと考え、聴きあい、語りあうイベントです。カフェ、学校、職場、図書館、お寺など場所は問いません。参加に資格もいらないし、知識もいらない。自分で思ったことを自分の言葉で言い、ひとの言葉にもしっかり耳を傾ける。そしてそれぞれの考えの違うところ、重なるところ、

「借り物の問いではない、わたしの問い」を
哲学的に考えることは、しばしば水中に潜ることにたとえられるそう。何かを深く考えることは、水中に深く潜ることと似ているからでしょうか。哲学対



著者近影 写真提供: 共同通信社

「人生を変える読書」を体感する3つの読み方



岡本太郎『自分の中に毒を持って<新装版>』
青春出版社 定価990円(税込) 256ページ
初版2017年12月 並製本
岡本太郎3部作シリーズ累計90万部突破!

失敗が怖くて動けないときは、「結果を気にせず、いま、この瞬間に自分を出し切る」読み方を試してみてください。

効率よく正解を出すことばかりが求められる世の中だからこそ、あえて立ち止まり、「うまくいくかどうか」ではなく「いまをどれだけ楽しんでいるか」に集中して、太郎さんの言葉を追いかけるのです。

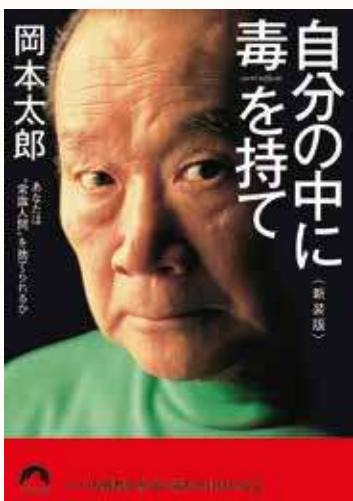
結果に縛られず、無条件に「いま」を生きる楽しさに気づいたとき、不安は消え去り、もっと自由に毎日を楽しめるようになるはずですよ。

いつもの日常に
さよならして、
新しい自分に会いに行く

最後に、本書を「ありきたりな毎日」を抜け出して、新しい自分へ挑戦するきっかけにしてみませんか。
人生の分かれ道に立つたびにこの本を開き、あえて「ドキドキするけれど、やってみたい道」を選ぶ背中を押してもらおうのです。

それは、時代を超えて読み継がれてきた岡本太郎の言葉を、今度あなた自身が自分の力にするということですよ。

この本と全力で向き合う時間は、あなたの人生をもう一度熱く動かす、かけがえない瞬間になるでしょう。



現カバーを取ると、岡本太郎表紙verが現れる!

スマホ登場で「子ども時代」のあり方は完全に変わった



ジョナサン・ハイト著／西川由紀子訳
『不安の世代 スマホ・SNSが子どもと若者の心を蝕む理由』
草思社 定価3,080円(税込) 480ページ 初版2026年1月
上製本 原書と同じカバーアートを使用しました。

一方、親たちは、つねに子どもの位置情報をスマホで確認しないと心配だと感じるようになった。

これらのすべてが、人類の子どもが健全な社会性を育むために経験すべき子ども時代のあり方を壊し、心の健康を悪化させていることを、本書は丁寧に示していく。

しかし、問題があることがわかって、親が子どものスマホ・SNS利用に制限を加えることは多くの場合、難しい。だからこそとくにSNSには法的に年齢制限を設けるべきだと主張する本書は、オーストラリアをはじめ各国で若年者のSNS規制議論に大きな



影響を与えてきた。日本においてはSNS規制の議論はまさにこれからだが、いかにすべきだろうか。

日本でも本書が指摘する状況が進行。女子の自殺者数は過去最多に

ここで日本の状況について見てみよう。本書が、SNSの悪影響をより受けやすいと指摘する女子児童生徒の自殺者数増加は著しい。その数は平成22年(2010年)と比べ3倍近くとなり、過去最多となっている(図参照)。こども家庭庁自殺対策資料より)。

日本においても他国同様の深刻な事態が進行していることは明白だ。

子どもたちの置かれている状況は、一昔前とはまったく異なるものになっており、それによりここ日本でも、子どもたちはかつてない新しい種類の苦悩を抱えている。本書はこの問題を理解し解決するために、親、教師、若者に関わる人すべてが読むべき一冊だ。

日本を含む世界各国で、10代の不安・うつ・自傷・自殺が増えている。本書はその原因の多くがスマートフォンとSNSにあることをデータで提示し、さらに具体的解決策を示した世界的ベストセラーである。

実際、スマホの登場は「子ども時代」のあり方を決定的に変えてしまった。スマホが気になり、一緒にいるクラスメイトと会話が起らない。注意力が散漫になり学力も低下した。女子は男子よりSNS依存に陥りや

すい。SNSで「イケてる」女の子の写真やショート動画を観るのをやめられなくなった。それらと自分を比べて自己評価が低下、不安で憂鬱に。また、女子の間で起きやすい「関係性いじめ」(仲間はずれにするなど)がSNSによって簡単にできるようになった。

男子は、オンラインゲームとネットポルノに夢中になり、現実世界での経験が減少。現実での挑戦や失敗からの学びの機会が失われ、いつまでも自信が持てず、無力感に苦しんでいる。

今だからこそ読みたい、パレスチナ問題の本質



岡 真理『増補版 ガザとは何か』
大和書房 定価1,100円(税込) 352ページ
初版2026年2月 並製本
文庫版も単行本と同じくパレスチナの地図を大きく
配置し、一目でテーマが伝わるカバーにしました。

「複雑で難しい」わけでも、
遠くの出来事でもない

2023年10月7日、ハマースによる越境奇襲攻撃を端として、イスラエルによるガザへの攻撃が始まりました。それまで繰り返されてきたガザへの攻撃とは質も量も大きく異なる事象だと、連日報じられました。

で、なぜこのような事態が起き、その背景にいかなる問題があるのかよくわかりませんでした。取り上げられていたとしても「長い歴史を持つ複雑な中東問題」といった、複雑さや長さが強調されていて、そもそも理解するのが難しいという前提があるようでした。

「増補版 ガザとは何か」のもととなった岡真理さんによる講演会が開催されたのは、攻撃から約2週間後のことです。京都大学と早稲田大学で開催され、ガザで今何が起きているのか知



永井玲衣さん(左)と岡真理さん(右)の対談の様子

りたい、という聴衆が詰めかけました。現代アラブ文学、パレスチナ問題を専門とする岡真理さんは、この講演でパレスチナ問題の歴史的文脈とその本質を極めて平易かつ明快に語りました。パレスチナ問題は決して複雑で難しい問題ではない。遠い世界の問題でもなく、私たちの問題なのだ——それまで傍観者でいた自分に、突然鏡を突き付けられたような気がしました。そして「何とかしてこのジェノサイドを止めなければならぬ」という岡さんの凄まじいまでの熱量に衝撃を受けました。

ぜひこの講演を多くの方に届けたい。事態の背景が語られないまま様々な情報が氾濫する中、一刻も早く書籍として世に出したい。岡さんの思いも強く、短い時間でできる限りの事実確認や加筆修正を行い、講演から2ヵ月後に緊急出版されました。

今回の文庫版では、この2年間を受けての論考や、哲学者永井玲衣さんとの対談(写真)、素朴な疑問に答えるQ&Aなどを増補し、多面的にパレスチナ問題を理解し、自分事として行動に移せるような内容になりました。

また新たな攻撃が起きている世界情勢を理解するために、私たちに何ができるかを考えるために。その礎となる必読の一冊です。



Memo

時間とは唯一絶対不変のものではない



本川達雄『ゾウの時間 ネズミの時間』中央公論新社
定価1,012円(税込) 240ページ 初版1992年8月 並製本
ももろさんイラストの全面帯!帯をとると中公新書を象徴する
緑色(ヴィリジアン)のカバーが出てきます。

発売から三十年以上、
多くの方に読まれ続けて
きました。

『ゾウの時間 ネズミの時間』はこれまで多くの読者に愛されてきました。

まずは、フェア開催にあたって寄せられた、トーハン社員の熱烈な推薦コメントをご紹介します。

「本書は、生物学入門書の名著です。

動物のサイズを切り口としたユニークな発想で寿命や心臓の鼓動数などの関係性を説明していきます。

動物はサイズによって時間の感じ方、流れ方が違うという部分は、時間はどうな物にも平等に当てはまると思っていた当時の高校生の私にとって、新鮮な衝撃を受けました。

また、一生のうち心臓の鼓動数について、哺乳類であれば、サイズや寿命に係らず二十億回であり、ゾウもネズミも人間も一生の時間の長さの感じ

方は同じかもしれないなど、興味をそそる事例が各章で書かれています。

自身が持っていた時間の概念や生物に対する見方が大きく変わるきっかけとなった本です!

「中公史上、最高の全面帯
だと自負しています。」

そして、本書の魅力を語るうえで、そのデザインも欠かせません。中公新書では唯一無二であるイラスト全面帯(実はカバーではなく、帯!)がかけられています。

発売当初はレーベル共通のカバーで流通していましたが、発売から二十五年後の二〇一七年、当時の担当編集と



営業が企画し、この帯が作られました。

二人とも子供のころに親や学校の先生から勧められて読んだのが、本書だった、という思い出をもとに「大人が購入してそのまま子供に渡せるように」とイラストの使用を提案。かわいらしい動物の絵が得意なイラストレーター、ももろさんに辿り着きました。

なんの伝手もなかったため、ダメもとで打診してみたところ、なんと偶然にも、ももろさんも同じく子供のころにこの本を読んでおり、しかもその内容からインスピレーションを受けた絵を描いたこともあって、依頼は快諾!完成したものが、今表紙を飾っているゾウとネズミと時計のイラストです。

数年で外されてしまうことも多い全面帯ですが、本書については、社内外の評判よく十年近くたった今でも使われています。

今でも重版がかかるロングセラーの「顔」は、こうして生まれました。



Memo

「SFは難しそう」と感じている人にこそ読んでほしい一冊！



柞刈湯葉『人間たちの話』 早川書房
定価880円(税込) 288ページ 初版2020年3月
並製本

現れる巨大な岩、透明人間といった多彩なSF的要素が登場しながらも、物語はあくまで『人間たち』の思考や行動に寄り添って進んでいく。専門的な知識に頼らず、誰もが自然と物語の中へ入り込める構成になっているのだ。

とりわけ印象的なのは、『宇宙ラーメン重油味』に見られるようなユーモアと温かみである。『食べる』という極めて身近な行為を通して、異なる存在同士の距離が少しずつ縮まっていく様子は、思わず頬が緩む魅力に満ちている。

【著者の柞刈湯葉氏よりコメント】
未来予想図を描いても、読者に届く頃には未来でなくなっている。そんな時代にSF小説を書く上で、ひとつ心がけていることがある。明日の天気予報ではなく、雨上がりの土の匂いを書くことだ。昨日の降水確率を見る人はいないが、雨はまた降る。

早川書房営業担当者の
推しポイント！

本書『人間たちの話』は、「SFは難しそう」と感じている人にこそ手に取ってほしい短篇集である。

裏表紙のあらすじにはこうある。

『どんな時代でも、惑星でも、世界線でも、最もSF的な動物とは、人間なのかもしれない。火星の新生命を調査する科学者が出会った、もうひとつの命との交流を描く表題作』『人間たち

の話』。太陽系外縁部で人間の店主が営む、消化管がある者は全員客のラーメン店繁盛記『宇宙ラーメン重油味』。人間が人間をハッピーに管理する進化したディストピアの悲喜劇『たのしい超監視社会』ほか、全六篇を収録。

このキャッチーな設定だけでも興味を引かれるが、本書最大の魅力はその『読みやすさ』にある。

SFと聞くと、難解な理論や複雑な設定に身構えてしまうかもしれない。しかし本書では、氷河期や突然室内に

想像力を働かせ、登場人物たちと同じ視点に立って読み進めてほしい。もし少し立ち止まったときには、本を閉じて表紙を眺めてみるのもいい。あらゆるけいこによる『人間たち』のイラストが、物語の世界をやさしく補ってくれるはずだ。

気が付けば、『人間とは何か』という問いを胸に、あとがきのページにたどり着いているだろう。



世界を少しだけややこしく、そして面白くする一冊



養老孟司『読むこと考えること』 双葉社
定価858円(税込) 296ページ 初版2026年1月
並製本

考えることは、
そんなに急がなくていい

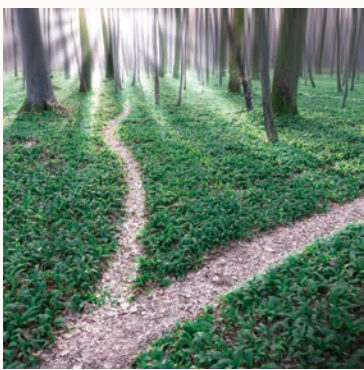
本を読む。ひとまず話はそれで終わるはずだが、どうもそうならない。

ミステリーを読めば、犯人よりも人の心のほうが気になりはじめる。動機は説明されても、納得まではさせてくれないからだろうか。科学の本では、理屈より先に自分の身体が口を出す。「本当にそうか」とでも言いたげに。どうやら読書とは、理解

する行為というより、余計なことを考え始める装置らしい。

養老先生の読書は、その『余計』を丁寧に拾い上げていく。ひとつの本を読み終えても、話は閉じない。登場人物の振る舞いから社会の仕組みへ、言葉の違和感から日本語の構造へ、さらには虫や自然の話へと、軽やかに話題が飛ぶ。しかも、その脱線に筋が通っているのだから油断ならない。まっすぐ考えていたはずが、いつの間にか横道のほうが本筋

にならぬ。まっすぐ考えていたはずが、いつの間にか横道のほうが本筋



になっっている。

そうして生まれた思索が、あとから見ればいくつかのまとまりを帯びてくる。養老先生にしてみれば、整然と分類した覚えはないはずだ。けれど、歩いたあとに道ができるように、考えたあとに形が残る。それくらいの順序で、ちょうどいいかもしれない。

本書は、何かを効率よく理解するための本ではない。むしろ、すぐに理解した気になってしまふ私たちの癖に、静かに疑問符を差し挟む。ひとつの見方に安住することなく、別

の角度から眺め直す。その繰り返しのなかで、思考はゆっくりとほぐれていく。読み進めるうちに、明快な結論にたどり着くというよりも、いくつかの見方が手元に残る。考えるとは、答えを出すことではなく、見方を増やすことなのだ、いつの間にか腑に落ちてくる。

役に立つかと問われれば、答えに窮する。けれど、ふとした場面で立ち止まる力は確かに残る。すぐに判断せず、少し眺めてみる。わからないままにしておく。そのわずかな遅れが、世界を前より少しだけややこしく、そして面白くする。

急がずに考えること。遠回りを引き受けること。

本を読むとは、時間を少しばかり無駄に使うための、上等な口実なのかもしれない。

言葉を重ねるよりも、伝わる真実――



アンジュール ある犬の物語
 作/ガブリエル・パンサン
 19cm×26cm 58 ページ
 定価 1,540円 (10%税込)



疾走する車から路傍に投げすてられた一びきの犬。あまりに衝撃的な冒頭シーンに、ドキッとしつつ、ページをめくる。犬は必死に車を追いかけるが、飼い主は、犬との距離を確認するかのようには運転席から顔をだすだけ。犬はやがて力尽き、立ち止まる。その後ろ姿は、自分の身にふりかかったことを信じられずにいるようだ。それでもまだ飼い主を探すように、野から浜辺へ、そして街をさまよう――。

作者のガブリエル・パンサンはこれらの出来事を一切の言葉もなく、モノクロのデッサンのみで語っている。いくつもの言葉を重ねるよりも、捨てられた犬の悲しみ、孤独が伝わってきて、胸がしめつけられる。書店の店頭で手に取り、涙をこらえられなかったという読者の声さえある。

パンサンはデッサン力の確かさ、力強さ、躍動感、は圧倒的だ。彼女が自身の作品のなかで特に重要視していたのは「動き」だという。描く喜びは、「動かし」喜びでもあると。

登場人物が走り、歩き、転ぶ。感情の動きも、表情、態度、動作で表現する。読者はページをめくりながら犬と一緒に立ち止まり、飼い主を呼び、自分の居場所を探ささる。

絵本『アンジュール』との出会い

1986年当時、私は営業部所属でした。編集部に行く『アンジュール』の原書がありました。すでに「くまのアーネストおじさん」は人気シリーズでしたが、『アンジュール』は絵だけの作品なので、編集部では扱おうつもりはないようでした。でも私は原書に魅せられ、書店さんに見せて歩いたら、どの担当者も「これはすごいね」と言ってくれて。社内では「本当に売れるのか」と危ぶむ声もありましたが、当時の社長に直談判して出版にこぎつけました。おかげさまで大きな反響をいただき、「絵本の原点」とも評されました。現在64刷、初版から40年と、当社のロングセラーとなっています。(B L出版 代表取締役社長 落合直也)



UN JOUR, UN CHEN by Gabrielle Vincent / © CASTERMAN S.A



Memo

真の闇を経験し、本物の太陽を見る



角幡唯介『極夜行』文藝春秋 定価957円(税込)
 400ページ 初版2021年10月 並製本
 表紙は、太陽が昇らない冬の極地の空の写真です

「言葉にするのは、難しい」ほどの感動を、最後に追体験できる

グリーンランドの冬。光のない3カ月を、犬一頭とともに橇を引きながら歩き続ける。

「極夜はカオスだった。何から何までひっくり返される。静寂の中にある混沌(カオス) (角幡)

あえてGPSを持たない選択をとったことも、探検をカオスに導く要因となった。暗闇の中に現れる氷河、白熊に阻まれる予定外の出来事、暴風との戦い……。視覚情報が失われることで、自分の位置を見失い、パニック状態になることもあった。

「だから書きやすかった」。ノンフィクション作家はそう言い、無事に帰ってきたからこそ探検家は「面白い旅だった」と振り返った。先が見えない憂鬱で孤独な日々を過

ごし、4カ月ぶりに太陽を見た時、何を感じたのか。「言葉にするのは難しい」というほどの感動を、読者は最後に追体験できる。

「極夜の探検は、新しいものになる、という予感があったから、自分の人生そのものとして表現したかった。納得のいく旅をして、それを文字にしたという気負いがあった。暗いだけの難しい極夜の世界を、自分が体験した混沌したものとして表現できた」

角幡唯介以外の誰が、暗闇での出来事を600枚もの原稿にまとめられるだろうか。

構想から6年、41歳になったノンフィクション作家の角幡唯介から、「うまく書けた。自分史上最高傑作だ」という言葉とともに原稿を受け取った日のことが今

も忘れられない。
 (編集者
 文藝春秋
 藤森三奈)



Memo

「太陽が昇らない冬の北極を旅する」
一世一代のテーマ

ノンフィクション作家が探検家か――理由を聞くとそう答えた。角幡の作品が「探検モノ」ではなく、「文学」であること、それは1冊、いや書き出しを読むだけでもわかる。だから出版界にもファンが多い。「作品を受け取りたい」と編集者に思わせる作家なのだ。

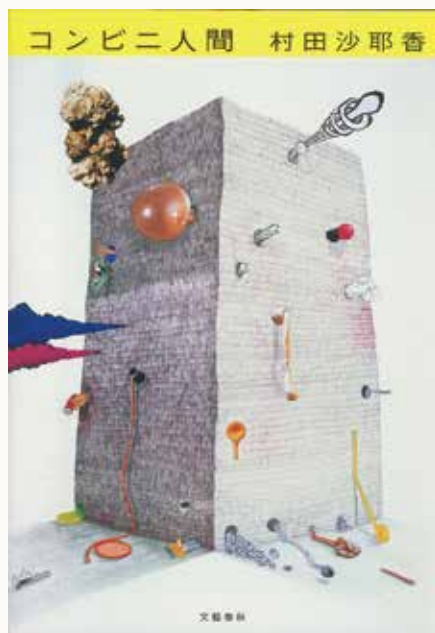
「極夜行」は、「太陽が昇らない冬の北極を旅する」という彼にとって一世一代のテーマに挑んだ作品だ。準備行から4年かかるこの探検を、体力、経験値、そして感受性の高

理由を聞くとそう答えた。角幡の作品が「探検モノ」ではなく、「文学」であること、それは1冊、いや書き出しを読むだけでもわかる。だから出版界にもファンが多い。「作品を受け取りたい」と編集者に思わせる作家なのだ。

「極夜行」は、「太陽が昇らない冬の北極を旅する」という彼にとって一世一代のテーマに挑んだ作品だ。

準備行から4年かかるこの探検を、体力、経験値、そして感受性の高

「コンビニ人間」 古倉恵子が歩いてきた道



村田沙耶香「コンビニ人間」 文藝春秋
定価693円(税込) 168ページ
初版2018年9月 並製本
文春文庫のマスコットキャラクターは「ぶんこアラ」

経ったいまも、ベストセラー街道を邁進中である。
そして今年、四十四の国と地域で翻訳された本書は、「世界累計三〇〇万部超」という、驚異的な数字を達成した。

日本からも海外からも、様々な感想が寄せられる

海外のブックフェアや読書会で、多くの読者と交流を重ねてきた村田さんだが、この作品の結末については「ハッピーエンドだ」と「バッドエンドだ」、驚くほど両極端の感想を頂戴する、と以前語っておられた。

を巻き起こしている。
いまや多くの外国人が日本を観光やビジネスで訪れ、当たり前のようにコンビニを利用する。様々な動画サイトで、おにぎりやサンドウィッチ、中華まん、チキンが「アメイジング」と紹介され、様々な言語でコメントが付き、「いいね♡」が押される。この中の何人かは『コンビニ人間』の読者なんじゃないかな、と勝手に想像してみたりする。
十年経って随分遠くまで来たものだ、と古倉さんも驚いているに違いない。



「店員」でいるときのみの世界の歯車になれる

本書の主人公は、恋愛経験の乏しい三十代半ばの独身女性・古倉恵子。子

二〇一六年の初夏、一つの小説が文藝誌『文學界』に掲載された。
村田沙耶香さんが、長年続けてきたコンビニエンス・ストアでのアルバイト経験をもとに執筆した『コンビニ人間』である。
供のころからその言動や行動で変人扱いをされ、愛情を注いで大切に育ててくれた両親は、「普通」じゃない娘が、どうすれば「治る」のか心配をする。
大学一年生のときに、新しくオープンしたコンビニでバイトを始め、その完全にマニュアル化された世界で歯車となって働くうちに、「私は、今、自分が生まれた」と認識する――。
結婚・仕事・「普通」という概念からはみ出した「生きづらさ」に共感する声が寄せられ、文庫化されて七年が

日本の変哲もない街角のコンビニで毎日レジを打つ女性の物語が、世界中の人たちに様々な感情を抱かせ、議論

「ひとりカラオケ」を歌うように



古賀史健著／ならの絵
『さみしい夜にはペンを持って』 ポプラ社
定価1,650円(税込) 291ページ
初版2023年7月 並製本
ビジネス書を読んで泣いたのははじめてです(営業担当)

小学生のころ、夏休みの宿題で日記を書かされた。ずっと書くのをサポートして、夏休みが終わる直前にまとめて書いた。七月になにをしていたかなんて、ひとつも憶えていない。だから必然、うそを書くことになる。ありもしないことを書くことになる。でも、それがどうした。どっちにしる日記なんて、うそを書くものじゃないか。先生の顔を窺って、先生からほめられそうなることを、いかにも元気に書く。ほんとうの気持ちは胸の奥に隠して、「いい

子」を演じて書く。それが日記なんだし、作文なんだ。そう思っていた。そしてうそばかり並べた日記を、先生はほめていた。
大学四年の秋、ぼくはあんなに嫌っていた日記を、また書きはじめた。もううそは書かない。書く必要がない。だって、今度の日記は「誰にも見せない日記」だからだ。いま自分が思っていること、観た映画のこと、読んだ本のこと、失恋のこと、嫌いなあの人のこと、手当たり次第に書いていった。

なにひとつ隠すことなく、とにかくぜんぶだ。
どうして日記を書きはじめてんだろう。きっとぼくは、話を聞いてほしかったんだと思う。そして自分のぜんぶを打ち明けられる人が、見当たらなかったんだと思う。友だちはいた。親友もいた。毎日のように遊んで、笑って、語り合っていた。でも、なにかが足りなかった。

ぼくたちはみんな、「誰にも言えないこと」を抱えている。家族に言えず、学校の先生にも言えず、友だちにさえ言えないなにかを、誰もがみんな抱えている。抱えていることを忘れてしま

うくらいそれは、胸の奥にとっしりと腰を下ろしている。
だったら、書けばいい。自分だけの日記帳のなかに、書いてしまえばいい。真っ白なノートはいくらでもぼくらの話を聞いてくれる。嫌な顔ひとつせず、ぼくらのことばを受け止めてくれる。何時間でも、何ページでも、どんな思いの乗った、どんなことばでもずっと。
その姿はちょっと、「ひとりカラオケ」に似ている。誰もいない部屋で、誰の目も気にすることなく、何時間でも歌い続けるひとりカラオケ。日記帳を開くときのぼくらは、自分だけのパレードを、ロックンロールを、激しいラップソングを、そしてラップソングを、好きなだけ歌っていきけるのだ。
さみしい夜にはペンを持って。作者としてのぼくがこの本でいちばん伝えたいメッセージは、「自分の声を取り戻そう」なのかもしれない。書くことでようやく聞こえてくる自分の、ほんとうの声を。

うの気持ちは胸の奥に隠して、「いい

子」を演じて書く。それが日記なんだし、作文なんだ。そう思っていた。そしてうそばかり並べた日記を、先生はほめていた。
大学四年の秋、ぼくはあんなに嫌っていた日記を、また書きはじめた。もううそは書かない。書く必要がない。だって、今度の日記は「誰にも見せない日記」だからだ。いま自分が思っていること、観た映画のこと、読んだ本のこと、失恋のこと、嫌いなあの人のこと、手当たり次第に書いていった。



絵・ならの

うの気持ちは胸の奥に隠して、「いい

立ち止まり、考え続けることの大切さを教えてくれる物語



原作 吉野源三郎 / 漫画 羽賀翔一 『漫画 君たちはどう生きるか』 マガジンハウス 定価1,430円(税込) 342ページ 初版2017年8月 並製本

をずっと探していた気がします」

書店員さんが熱を持って展開してくれた

担当編集者と二人三脚で、物語の臨場感、没入感が削がれない工夫をたくさんしたと羽賀さん。

「おじさんから手渡されたノートを読むシーンで、持っている手まで描いたのは編集者のアイデアです」

表紙のコペル君の絵も何度も描き直したという。

「当時、先行販売を行った丸善日本



橋店の店長さんに、表紙がいいと言っていただけだことを覚えています。書店員さんで原作のファンという方も多く、あの『君たち』が漫画になったんだと熱を持って展開してくださった。読み終わったときの心の風景がちゃんと原作に近いものになるかどうか、かなり考えながら描いていたので、そこを受け止めてくださったのかなど」

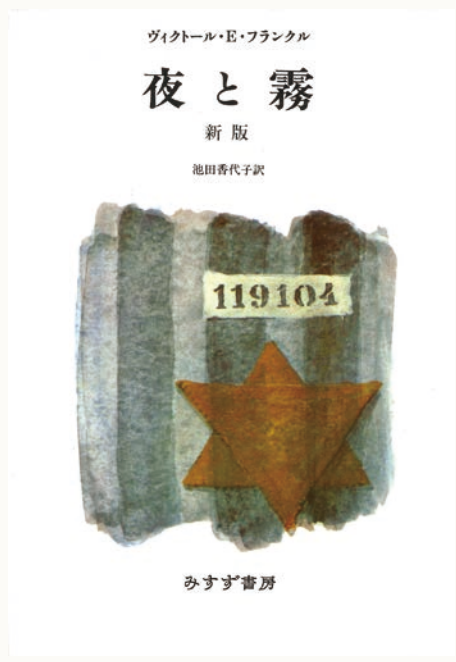
サイン会を行えば、多くの親世代が足を運んでくれたことも印象深い出来事だった。

「子どもたちは、『ONE PIECE』や『呪術廻戦』を読みたいとは思って、この本、読んでみて、って、そういう気持ちになってくださったことは、とても嬉しいことでした」

羽賀さんは最近、洪沢栄一著『論語と算盤』の漫画化にも挑んだ。

『君たち』も『論語』も、社会の中で生まれてくる自分の意思を大切にしているところが共通している気がします。これから、社会に出ていく人にも読んでいただけたら」

生きることに期待がもてない、そんな時に開いてほしい



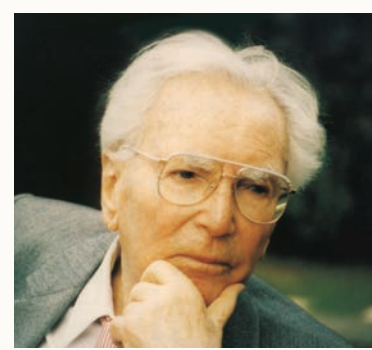
ヴィクトール・E・フランクル著 / 池田香代子訳 『夜と霧 新版』 みすず書房 定価1,870円(税込) 184ページ 初版2002年11月(1977年の原著改訂版からの新訳) 上製本

こそ、立場を超え人々に強い印象を与え続けているのではないのでしょうか。

フランクルは人生における価値には「創造価値」「体験価値」「態度価値」の三つがある、と『死と愛』という本で語っています。本書はそのうち「態度」の重要性を伝えています。

「この手記は独自の性格を持っています。読むだけでも寒気のするような悲惨な事実をつづりながら、不思議な明るさを持ち、読後感にはむしろさわやかなのです」(中村光夫氏評)。

ここに引用した本書の書評にもあるとおり、さわやかな読後感さえ与える



©Katharina Vesely

フランクルの思想は、目の前に立ちただかった困難な事実とどのように向き合うか、という課題を持つ人に読まれてきました。自分の人生に希望が持てそうにないとき、望みが絶たれてしまったとき、どうしたら生きていけるのか。フランクルは、戦争によって妹をのぞいて家族全員を失ったとき、自分を支えるために言葉を紡いでいきました。そうして生まれたのがこの『夜と霧』という本であり、その中心的思想である苦悩のなかの勇氣や明るさが、本書をただの手記を超えた思想書としての価値を生んだといえます。

最近では二〇二五年にノーベル生理学・医学賞を受賞した坂口志文さんが高校時代に読み、精神医学に興味をもった本、フリーアナウンサーの宇垣美里さんが本書の一節を心の支えとして繰り返し読み返している本、と紹介されたりなど、各メディアの紹介で再び話題となりました。困難に向き合う意味、苦しむことをどのように価値に変えるのか、そのヒントをくれる一冊です。

編集後記



THINK SLOW. MAGAZINEをお手に取っていただき、ありがとうございます。THINK SLOW.は、昨年11月に私たちトーハンが掲げたコーポレートメッセージです。トーハンは、出版社から本を仕入れて、書店へ本を卸す物流の会社です。なぜ今、一物流会社である私たちがこのメッセージを掲げているのか。それは、本を届けるためには受け取ってくれる人が必要だからです。本と人との出会いを増やし、つないでいくこと。それは、本を届ける私たちの使命なのです。

このメッセージを広げていくために、今回、書店店頭でのTHINK SLOW.フェアが立ち上がりました。弊社社員が選んだ、熟慮のきっかけとなる25冊。最初の選書段階では、推薦理由とともに約200冊もの候補が集まりました。この1冊1冊が、1人ひとりの考える時間に寄り添ってきたのだと思うと、それは人生のどんな瞬間だったのだろう、と想像し思わず胸がじんとしてしまいました。

「熟慮」は忙しい日々埋もれてしまいがちです。それを取り戻すための手触りのあるものを残したい。そんな想いがフェアを作っていく中で芽生え、実現したのがこのTHINK SLOW. MAGAZINEです。当フェアで展開する25冊それぞれの「THINK SLOW.」に繋がる魅力を、1ページずつ出版社様に制作いただきました。各社の個性を味わっていただきたく、あえてページのつくりも統一していません。どのページも読み応えがあり、とても素敵な誌面になっています！どうぞゆっくりと、それぞれのTHINK SLOW.を楽しんでいただけたら嬉しいです。

最後に、当フェアはメッセージに賛同し参加して下さった出版社様、書店様のおかげで実現しています。この場を借りて深くお礼を申し上げます。

「今こそ、本の出番じゃないか？」という問いかけは、人が、本を作り、届け、売って、広める。本を手にとって読む。この循環があつてこそ、成り立っています。当フェアが、本と人との新たな出会いのきっかけになれば幸いです。

THINK SLOW. MAGAZINE 制作事務局一同

Special Thanks

THINK SLOW.フェア
参加書店:150店
参加出版社:24社

THINK SLOW. MAGAZINE
2026年5月1日発行
発行社(株)トーハン

今回の企画にあたり、
多大なるご協力をいただいた
出版社・書店の皆様、
深く感謝申し上げます。

THINK SLOW.
Instagram

フェアの様子をお届け!

当フェアの
ご意見、ご感想を
お聞かせください。



時の辞典

365 days of Tanka

岡野大嗣

ライツ社

the way to enjoy 1

時の流れから降りてみる

三十一音を読むのに、ほんの数秒。けれどそのあとに、忘れていた景色がふいによみがえることがあります。短歌とたわむれるとき、わたしたちは時の流れから自由になれる。一方向に進みつづける時間から、そっと降りてみる——この本における「スロー」を、そう考えています。一首が、あなたの時間をやさしく引き止めてくれますように。

(9月14日)
沿道のコスモスざかりに押し歩く自転車 長く生きてきたよな

the way to enjoy 3

暮らしに一首を活ける

一日一首、一ページ。どこから読んでもかまいません。枕元に、食卓に、鞆のなかに——ちいさな四六判変形は暮らしのどこにでも収まります。疲れた日はそっと開くだけで十分。文字は大きく、短歌の本がはじめての方にも読みやすいはず。読み通す必要はありません。部屋に活けた花のように、ただそこにあるだけで静かに息づいてくれる一冊をめざしました。

(12月25日)
倒れないようにケーキを持ち運ぶとき人間はわずかに天使

the way to enjoy 2

ずっと溶けない鉛みたいに残っている

短歌は短い。なのに、読み終えたはずの一首が一日のどこかでふと甦る。意味をすべて汲み取れたわけではないのに、ずっと口のなかに残っている。いくらなめても溶けきらない鉛のようなものです。わからなさごと味わう答えを急がない。三十一音の余白のなかで考えつづけられること自体が、この本がさしたす、ちよっと贅沢な時間です。

(11月20日)
誰だろう毛布をかけてくれたのは わからないからしあわせだった

the way to enjoy 4

あなたが生きた時の透かしに

気になるあの人の誕生日を、まず開いてみてください。曜日の記載がないから、いつ手にしても「今年の一冊」になります。余白にその日あったことを一行だけ書き添えてみる——それがもう、ゆっくり考えることの入口です。この本は、時の標本ではありません。読んで、書いて、贈って。あなたが生きた「時の透かし」にしてもらえたらうれしいです。

(1月1日)
あなたとはハウ・アー・ユーで始めたい百年ぶり
に会ったとしても

the way to enjoy 5

十二の季節をページで辿る

本文用紙は月ごとに色が変わります。三月は桜のピンク、五月は新緑、八月は太陽の黄色——ページをめくるたび指先が季節をなぞり、小口にはカラフルな虹のような断面がのぞきます。真冬に五月のページを開けば、掌のなかに初夏が届く。「なぜこの月にこの色だろう」と立ち止まることも、ひとつの「シンクスロー」。画面では出会えない、紙の本だけの体験です。

(3月27日)
あどがきにかえて、みたいに咲いている桜 そう
いう気持ちの夜に

